

国外実態調査報告書

テーマ : タイでの中等教育でのプログラミング教育実習およびPIM大学生との交流会
ゼミ名 : 斎藤 正武ゼミ
調査日 : 2022年9月12日(月)~9月18日(日)
調査先 : 【タイ】パンヤピワット経営大学 PIM、パンヤピワット経営大学附属中学校
Satit
授業科目名 : 演習 I・II
参加学生数 : 12名(3年生)

調査の趣旨(目的)

PIM(パンヤピワット経営大学)とは、商学部GIプログラムで既に連携をしている大学であるが、先方の学部のゼミと交流会を(コンビニエンスストアに関する研究)行う予定である。

PIMの附属中学校において、2017年度より英語によるプログラミングの出前授業を行っており、本年度も本学学生(斎藤正武ゼミ生)によるプログラミング授業を行った(MicroBITによるプログラミング)。

調査結果

今回のゼミ活動は、2つあり、1)PIM附属中学校でのプログラミング授業、2)PIM経営学部とのゼミ交流であった。

1)については、実際に、中学2年生全クラスを対象にして、2日間、Micro-bitによるプログラミング教室を行った。生徒一人一人にMicro-bitの端末を渡して、マイクロソフト社が提供するMicro-bitプログラムサイトにおいて、ブロックプログラミングをハンズオンの形式で実施した。中大の学生が英語を使って、資料とスライドで説明しながら、授業を進めて、他の中大生が、生徒の実習のサポートを行う形式で行った。課題は、すこしく作成を行い、プログラム完成後は、グループに分かれて、あらかじめ中大の学生が作ったすこしくゲームを行ない、大変な盛り上がりを見せた。

2)については、「現代の流通業の実際」ということで、日本にもタイにも多くの店舗があるコンビニエンスストアのサービスや経営戦略をそれぞれが発表した。日本のコンビニエンスストアの特徴や、また、タイのコンビニエンスストアの特徴などがわかり、大変盛会な発表会となった。日本から持参した日本にしか売っていないお菓子が大変タイの学生に受けた。

両方のイベントとも、英語を利用しての発表であったが、タイの学生は日本語をわかっている学生が何人かいて、英語、日本語を交えての交流会となった。